



# ASAHIGAWA ROTARY CLUB

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2500 No.3 GROUP  
Established on October 26th.1934 RI No.3744

国際ロータリー第2500地区 第3分区

## 旭川ロータリークラブ 会報

第3351回例会 Vol.70 No.17 2018 (平成30)年11月16日 (金)

### ▼ プログラム

ゲストスピーチ 「少年 (学童) 野球の現状と問題点」  
旭川軟式野球連盟 理事長 竹本 功 さん

### メニュー

・根菜いっぱいミネストローネ ・牛バラ肉の煮込みとビーフカツレツ 野菜のオ・ジュ  
・サラダ ・ライス ・コーヒー

### ロータリー財団月間

### 出席報告

第3350回例会	第3348回例会
11月9日	10月26日
会 員 74名	会 員 74名
出 席 38名	修正出席 61名
出席率 51.35%	修正出席率 81.33%

RIテーマ

会長 バリー・ラシン

## “インスピレーションになろう”

11月23日 (金) 休会 (勤労感謝の日)

### これからの予定

11月30日 (金) ゲストスピーチ 終活相談ネットワーク北海道 主宰 森 裕子 さん  
12月7日 (金) 年次総会  
12月14日 (金) 年末家族懇親会

11月9日 (金) 第3350回例会の記録

開 会 宣 言 尾田利雄 会場監督  
四つのテスト唱和 野崎和彦 会員  
ロータリーソング斉唱 我等の生業

点 鐘 会長 12:30

- 会 長 鎌田嘉範 ●編 集 IT・会報委員会 ●委員長 宗万脩史 ●担 当 中野 信
- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30 ●事務局 前野房子
- 例会場 星野リゾート OMO7 旭川 〒070-0036 旭川市6条通9丁目 TEL (0166) 29-2777 FAX 24-2114
- 事務局 道北経済センタービル 2F 〒070-0043 旭川市常盤通1丁目 TEL (0166) 25-1551 FAX 23-3398
- ホームページ <http://www.asahigawarc.org/> ●Facebook [facebook.com/asahigawaRC/](https://www.facebook.com/asahigawaRC/)



facebook

## 会長挨拶：鎌田嘉範

皆様こんにちは。本日ゲストスピーチをしていただきます、中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館学芸員、齊藤眞理子様、ようこそいらっしゃいました。後ほどのご講演を楽しみにしております。どうぞよろしくお願いたします。

さて、先々週のおかだ紅雪庭での旭川ロータリークラブ創立記念夜間例会では、浅井委員長をはじめとする親睦活動委員会の皆様、そして、先週の職場訪問例会では、自衛隊との窓口となっておりました新崎裕一会員、並びに、上用職業奉仕委員長のご尽力に対しまして、深く感謝申し上げます。また、多くの会員の皆様にご出席いただき、おかげさまで楽しい会となることができました。ほんとうにありがとうございました。

さて、今月はロータリー財団月間でございます。ロータリー財団の正式名称は、国際ロータリーのロータリー財団でございます。1917年に、当時のアーチCクランプR I会長が、「世界で、よいことをするために」基金の設置を提案したことに始まり、「人道的」「教育的」「ポリオプラス」の三大プログラムと六つの重点分野を掲げ、数々の変遷を経て、2013年からはグローバルなニーズに応えられるよう新しい補助金モデルを導入した「未来の夢計画」がスタートしておりますが、本来の使命である「人々の、健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を、達成できるようにする」ことに変わりはありませんので、ロータリーアンひとりひとりの寄付が発展途上国にきれいな水をもたらし、平和活動に携わる人材を育成するなど、世界中で持続可能な影響をもたらしておりますし、先日お話しをしたポリオ撲滅においても予防接種活動を通じて、発症数を世界で99.9%減少させております。

活動計画書の中に記載しておりますが、ポール・ハリス・フェローや、マルチプル・フェローなど、ロータリー財団に多くの会員の皆様から善意をいただいております。どうか、会員の皆様には、今年度は岸井国際奉仕委員長、生駒ロータリー財団委員長の事業計画のもと、ロータリー財団へのご理解とご協力をいただけますようよろしくお願い申し上げます。

また、11月5日を含む1週間は、「世界インターアクト週間」でございます。インターアクトクラブとは12～18才を対象としたクラブで、様々な活動の実践を通して、青少年に奉仕と国際理解に貢献する情熱を育成するために結成されており、当クラブがスポンサーである旭川龍谷高等学校インターアクトクラブは、街頭募金活動、ゴミ拾い、清掃ボランティア、障害者のお世話や独居老人見守りなど、積極的な奉仕活動を継続しております。どうか、会員の皆様には、世界インターアクト週間を機に、その活動にご理解とご協力をいただけますようよろしくお願いいたします。特に、例年開催されております学校祭でのチャリティーバザーでの物品の提供などの要請がありましたら、快くお引き受けいただければと存じます。

それではお食事にいたします。

## 委員会報告

山本憲彦出席委員長より

炉辺会合のご案内。

浅井傑親睦活動委員長より

年末家族懇親会のご案内。

## ニコニコボックス

園田直之 君

無事に会計監査が終わりましたので。

## メークアップ

11月2日(金)～11月9日(金)迄 敬称略

[11月5日(月)札幌南へ]

小森林正司郎

[11月6日(火)札幌清田へ]

小森林正司郎

## プログラム

ゲストスピーチ 「彫刻のまち 旭川」

中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館 学芸員

齊藤真理子 さん



旭川には多くの彫刻が置かれ、「彫刻のまち 旭川」と呼ばれています。このきっかけとなった「中原悌二郎」とその経緯についてお話したいと思います。

中原悌二郎は、明治21(1888)年に釧路

で生まれますが、8歳の時に旭川の叔父の養子となります。画家を目指して上京。しかし、ロダンの彫刻に出会ったことにより彫刻家へ転向します。日本美術院展に入賞し同人になるなど、将来を嘱望さ



れていた中原悌二郎でしたが、以前の貧困な生活により患った結核が再発し、大正10(1921)年3月28日、32歳と5か月という

若さで亡くなります。

友人であった彫刻家平櫛田中は、日本の近代彫刻史に欠くことの出来ない存在である中原悌二郎が、故郷である旭川では知られていないことをひどく嘆き、中原の優れた作品が旭川に帰り、その業績を顕彰されるべきであると、旭川ゆかりの彫刻家加藤顕清に働きかけを行います。この加藤の仲介により、市民有志による『中原悌二郎遺作保存会』(会長井内謹二氏)が発足し、昭和37(1962)年、中原悌二郎の作品が旭川にもたらされることとなります。また、これを契機に旭川叢書の第2巻として『中原悌二郎—その生涯と芸術—』(匠秀夫著)が発行され、旭川市民に中原悌二郎の人と芸術が広く知られるようになりました。

さらに昭和45(1970)年、中原悌二郎の業績を顕彰し、日本の彫刻界に寄与する目的で【中原悌二郎賞】が創設されました。この賞は、公募やコンクール形式ではなく、美術評論家や彫刻家の選考委員によって、過去1年間(現在は2年間)に日本国内で発表された日本人作家の最も優れた作品が選ばれ、贈与されるもので、受賞作品を(原則的には)旭川市が購入しています。日本国内の彫刻の賞としては、最も多い回数を重ねており、彫刻家にとっては大変栄誉ある賞の一つとして、『彫刻界の芥川賞』とも評されています。昨年度で第40回を迎え、受賞作は80点を超えており、結果として、超一級の作品が旭川に集約されていることとなり、市民の誇るべき財産といえます。

続いて、昭和47(1972)年に買物公園がオープンしたことにより買物公園をはじめ、橋梁や常磐公園等に彫刻が設置され彫刻が身近になり、また企業が彫刻を寄贈するなど市民の間にも彫刻が浸透していきます。

こうした経過によって徐々に「彫刻のまち 旭川」といわれるようになっていきます。

一方、野外彫刻以外の作品は、市立郷土博

博物館で一部展示されていましたが、博物館が移転したことから建物（旧旭川偕行社）の改修工事を行い、平成6（1994）年、彫刻専門の美術館として「中原悌二郎記念旭川彫刻美術館」が開館します。中原悌二郎の全作品12点をはじめとして、中原悌二郎賞の作品など近・現代彫刻の優れた作品が一堂に展示されるようになりました。



この旧旭川偕行社は、明治35（1902）年旧陸軍第7師団の将校たちの福利厚生施設として建設されたもので、皇太子時代の天皇、昭和天皇、また軍医だった森林太郎（森鷗外）も宿泊しています。平成元（1989）年には、旭川で唯一の国の（有形）重要文化財に指定されています。今年の10月8日に約5年間の耐震補強工事を経て、再開館しました。

また旭川市としては、単にまちに彫刻を設置するのではなく、市民にもっと彫刻に親しみ、関わっていただくための取組みとして「彫刻フェスタ」（彫刻公開制作）「彫刻サポート隊」（彫刻清掃ボランティア）「巡回展示・出前授業」（小中学校への作品展示・鑑賞授業）を行っています。

旭川市民の皆さんには、「彫刻のまち 旭川」の彫刻作品の質が第一級であること、日本でこのような質の高い作品群があるのは旭川だけであると十分に誇っていただきたいと思っています。



現存作品12点。  
中原悌二郎は「ロダンの登場により始まった近代彫刻の日本における出発点」の1人として高い評価を得ている。

中原悌二郎「若きカフカス人」  
1919



一色邦彦「鳥人譜」1979（7条通買物公園）

1990（H2）年 旭川ロータリクラブを始め6ロータリークラブから寄贈されたもの。作者の一色邦彦は、第4回中原悌二郎賞優秀賞受賞者。

作品は、ロータリーのクラブの精神の1つである「平和」を象徴する鳩が少女の肩にとまっている。

点鐘 会長 13：30